

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：本県の立地条件に適した薬用作物の選定と栽培技術の確立（H28～30）

担当者名：窪田哲、萩原裕一

| 評価項目                      | 評価点   | 指摘事項   |
|---------------------------|-------|--|
| 1 課題設定の必要性<br>（背景、社会的ニーズ） | 5 / 5 | 天然物由来の医薬品原料については海外からの輸入がその大半を占めるため、原料の安定供給と安全性の担保が急務である。また、高齢化社会に向けて漢方薬の需要が高まることは必至である。このように社会的ニーズも高く、県として推進すべき課題であると考ええる。 |
| 2 課題の新規性、独創性              | 4 / 5 | 漢方薬原料となる植物は種類も多くかつ気候風土の影響を受ける。そのため、当県に適応できる薬用作物の開発・栽培技術の確立という意味において、課題の新規性はやや高いと考える。                                       |
| 3 目的・内容の整合性、妥当性           | 4 / 5 | 対象作物が多種ある中で、地域に合った作物を選定し、その作物にあった栽培法を開発する方式は極めて理にかなっていると考える。   |
| 4 研究手法の的確性、技術的可能性         | 4 / 5 | 園芸作物とは異なり、じっくりと作物を育てる必要があるという意味では、耕作放棄地の有効利用、中山間地の活性化に適した研究課題である。専門の関係機関と綿密な情報交流をすることにより、技術的可能性が期待できる。                     |
| 5 成果の期待度                  | 5 / 5 | 適用作物や栽培技術を確立できれば、耕作放棄地の有効利用、中山間地の活性化、医薬品原料の安定供給が期待できる。是非長期的に取り組んでもらいたい課題である。   |
| 総合評価                      | 4 / 5 | 県のみならず我国が抱える重要課題と同時に社会的ニーズにマッチした課題でもある。山間地の新たな産業となる研究成果があげられることを期待する。  |

試験研究機関の処置

需要者（製薬会社、卸問屋等）や漢方薬研究者、薬用植物園を管轄する森林総合研究所と情報交換を行いながら、本県の立地条件に適した需要および収益性の高い品目の選定と栽培技術の確立を図り、中山間地の活性化、耕作放棄地の解消につなげていきたい。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：地下水を利用した施設トマトの夏期高温障害対策技術の確立（H28～30）

担当者名：赤池一彦、五味敬子

| 評価項目                      | 評価点   | 指摘事項   |
|---------------------------|-------|--|
| 1 課題設定の必要性<br>（背景、社会的ニーズ） | 5 / 5 | 地球温暖化が進む中、生産者にとっては施設トマトの夏期高温障害対策およびハウス内労働環境改善技術の確立は急務である。社会的ニーズからも県として推進すべき課題であると考ええる。       |
| 2 課題の新規性、独創性              | 4 / 5 | 地下水という当県の地域資源を利用した簡易冷却技術の確立という意味において、課題の新規性はやや高い。  |
| 3 目的・内容の整合性、妥当性           | 4 / 5 | 山梨県の主要作物を対象にした研究課題であり、課題の目的・内容に整合性、妥当性があると考ええる。  |
| 4 研究手法の的確性、技術的可能性         | 4 / 5 | 山梨県の地域資源等を活用した手法であるが、栽培技術や調光技術との併用でより高い効果が期待できるので、技術の確立を期待したい。                               |
| 5 成果の期待度                  | 4 / 5 | 地域資源を利用することで夏期高温障害対策技術ならびにハウス内労働環境改善技術の確立が期待できる。本技術は、トマトに限らず夏期における園芸作物生産に利用でき、成果の期待度は高いと考える。 |
| 総合評価                      | 4 / 5 | 地域資源を活用した簡易冷却方法であるが、高温期において利用できる栽培技術と併用することで課題達成が期待できる。是非取り組んで欲しい課題の一つである。                   |

試験研究機関の処置

ハウス冷却技術として当センターで考案した低コストな簡易散水方式を、ハウス形状や規模、設置法、散水時間（サイクル）の点から評価し実用性を高めていきたい。さらに調光資材との併用により降温効果を向上させるとともに、トマト生育初期の高温条件下における栽培管理技術を確立したい。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：ピラミッドアジサイ切り花および鉢花の高品質生産技術の確立（H28～30）

担当者名：穴澤拓未、望月寛徳、藤木俊也

| 評価項目                      | 評価点   | 指摘事項   |
|---------------------------|-------|--|
| 1 課題設定の必要性<br>(背景、社会的ニーズ) | 5 / 5 | 近年、国内花き生産は低迷しているものの新規花きに対する消費者の要望は高く、花き輸入は増加している。本課題ではオリジナル性の高い本県産出ピラミッドアジサイの新規形態の花き生産を目指したものであり、社会的ニーズからも県として推進すべき課題であると考ええる。 |
| 2 課題の新規性、独創性              | 4 / 5 | オリジナル品種の開発と合わせて、切り花、鉢花とも新商材としての技術確立で、ピラミッドアジサイ生産の拡大を図るところに課題の新規性、独創性があると考ええる。  |
| 3 目的・内容の整合性、<br>妥当性       | 5 / 5 | 県内育成の花き品種を対象にした研究であり、消費者のニーズに応じた課題の目的・内容に整合性、妥当性があると考ええる。  |
| 4 研究手法の的確性、<br>技術的可能性     | 4 / 5 | 花木類の成長調節技術の確立には地道な試行が要求されるが、生産者等と綿密に情報交流することでよりの確な方策が立てられると考ええる。   |
| 5 成果の期待度                  | 5 / 5 | 開花調節技術および生産技術を確立できれば、地域ブランドの確立や産地形成も可能であり、成果の期待度は高い。   |
| 総合評価                      | 5 / 5 | 県内育成品種を利用するということで、地域ブランドの確立を視野に入れ課題を推進することを期待したい。さらに、この成果は追随を許さないピラミッドアジサイの産地形成に大きく貢献できると考えられる。                                |

試験研究機関の処置

ピラミッドアジサイ研究会を中心とした生産者等と緊密に連携し、情報交換を行いながら試験を進める。また、育成中のオリジナル系統の活用も含め、鉢花、切り花、秋色アジサイの高品質生産技術を開発することにより地域ブランドの確立を目指す。

